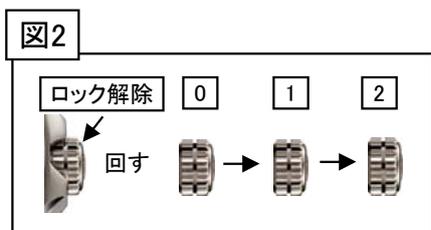




※機械式時計は精密なパーツが組み込まれた、非常にデリケートな精密機械です。ご使用前に、この取扱説明書と添付の小冊子の機械式時計の解説の部分を読み深くお読みの上ご使用ください。

### 操作方法



#### ①ネジの開放

リューズはネジ込みロック式となっています。リューズをゆっくりと手前方向に回してください。(反時計回し)リューズのロックが解除されます(図2の0位置)。この位置でリューズを12時方向に回すと、ゼンマイの巻き上げが出来ます。

#### ②「日付カレンダー」の修正

リューズを一段引き出し、1の位置にします。この位置でリューズを奥方向に回すと日付の修正ができます。(時計周しの方向)

#### ③時刻の修正

リューズを更に引き出し、2の位置にします。この位置でリューズを操作すると時刻(時・分)の修正が出来ます。

全ての作業が終了したら、**リューズを押し付けながら**12時方向に回転させ、ネジをゆっくりと固くなるまで締めてください。  
※ネジのかみ合わせに注意して締めてください。ねじ山が崩れるなど、故障の原因となることがあります。

○「日付カレンダー」の修正の時には昼夜のずれが生じないよう時針を動かし、夜の12時のカレンダー送りを確認してから、午前、午後の時刻合わせをすることをお勧めします。

○本商品は「自動巻き」ですが、時計が止まっている時はリューズを回転させ、ゼンマイの巻上げをしてください。約45時間の持続時間があります。巻き上げ過ぎによるゼンマイの故障の心配はありません。

# クラフツマン《S526X》が持つ「実力」を徹底説明！

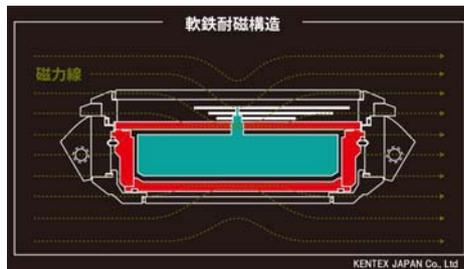
## 【1】強化耐磁&耐衝撃構造

軟鉄製インナーケースでムーブメントを完全に包み込むことにより、64,000A/mという高い耐磁性能を実現。  
さらにケース内部には衝撃吸収材である8個の樽型ガasketとO型ガasketを配置し、縦横両方向からの衝撃からムーブメントを保護する設計となっています。  
機械式時計の弱点である磁気・衝撃による精度狂いからムーブメントを保護し、常に最高のパフォーマンスを発揮いたします。

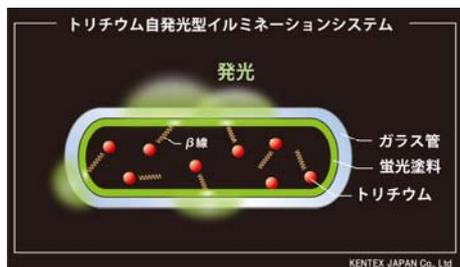
<図>

軟鉄インナーケースが、磁力線を屈曲させて外に逃がすことにより、内部のムーブメントを磁界から保護します。

※図はS526X-04のモデルです。



## 【2】. 抜群の視認性(トリチウム) 【2】. 抜群の視認性(トリチウムガス発光システム)



どんな暗間でも時刻を読み取れる視認性は、時計本来の実用性において重要な機能です。  
クラフツマン25th Anniversaryモデルでは、20年以上も光り続けるスイスMBマイクロテック社のトリチウムマイクロガスシステムを12ヶ所のインデックスと、時分・小秒針に採用しています。

(12時位置のみオレンジ色を採用)

## 【3】. オールチタン仕様 (IPHコーティング仕上げ)

ケース、バンドには全てに軽くて強靱なJIS2種純チタン材を採用。さらに耐傷性を大幅に高めるIPH超硬質皮膜処理を表面に施し、プレステージに相応しい表面仕上げとなっています。また、ブラックのオクタゴンベゼルには傷が付きにくい超硬質ファインセラミックスを採用し、未永く綺麗にお使いいただける設計となっています。  
また、ケースバックのスパナ溝は、独自の特殊形状になっており、ケンテックス社が責任を持って、一生時計のメンテナンスを実施していく誓いを込めています。

## 4. 商品仕様

ムーブメント<Mov't>	MIYOTA9015 28,800振動(24石), 巻上げ持続42時間
ケース <Case>	オールチタン 強化耐磁衝撃構造(64000A/m), 耐衝撃構造, IPH超硬質コーティング ファインセラミックスベゼル, スケルトンケースバック(シリアルナンバー入)
ガラス <Glass>	サファイアクリスタル(両面無反射コーティング)
ダイヤル <Index>	4層ダイヤル(軟鉄、型打ち、カーボン、インデックス) & (時分針)はトリチウムガスシステム
防水性能 <WR>	100m強化防水 捻じ込み式ロックリュース
バンド <Band>	チタン製, IPH超硬質コーティング, ケンテックスロゴ入り三つ折れ無垢バックル
限定生産 <Lmited>	シリアルナンバー入り

■ ご注意ください ※大切な時計を長くご愛用いただくために、以下の事項をお守りください。

☆カレンダー(日付・曜日)の早送りは午後9時~午前3時の間は避けてください。故障の原因となります。

☆リュースのネジ締めは優しく行うようにしてください。力で無理に押し込んだりねじ込んだりいたしますと、ネジ山を崩してしまうことがあります。また、ある程度固く閉めたところで止めてください。必要以上に力いっぱいネジを締めますと、ネジパイプ取れの原因となります。